

繁藤月報

〒 789-0583

高知県香美市土佐山田町平山 1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

力あるなら、掘り切りてみよ

「元初まりの話①」

こふきのひろめシリーズ vol.7

明治14年から20年にかけて教祖の高弟たちが残した書物は、いわゆる「こふき話（本）」と呼ばれている。そして、それらの中心ともいえる内容が「元初まりの話」である。

今回は、ようやく「こふき」における「元初まりの話」の内容に入っていく。

◆ 確かなる掘りどころ

本題に入る前に、大切なことを一点おさえておきたい。

以前の巻頭言で、「こふきを作れ」との教祖のお言葉には、取次人の養成という教育的意図があり、あえて人間に作らせることによって「余白」を残されたのではないかと述べた。しかし当然ながら、作り手によって内容や表現方法などにそれぞれ違いがある。中には、表現内容が一部食い違っている部分さえある。そして何より、教祖がよいと認められたものは一つもない。

では、何が典拠、つまり確かな掘りどころであるのか。

それは、教祖が直々に筆をとられた「おふでさき」で

ある。今後、「こふき話（本）」をはじめ、様々な資料を提示することになると思うが、まずもって間違いのない掘りどころは「おふでさき」である、ということをしつかりとおさえておきたい。加えて、天理教教会本部より出されている『天理教教典』の「第三章・元の理」が、それに次ぐ掘りどころとなるだろう。

◆ 親しみやすい説話

この連載で何度も紹介している書籍『こふきの研究』において二代真柱様は、元初まりの話を「説話」という言葉で表現されている。

説話とは、実際にあったことや不思議な出来事として、口承（口から口へ）で伝えられてきた神話、伝説、昔話などを意味する。

本来、「元初まりの話」の解説を進めるならば、教典の「第三章・元の理」をベースに進めていくのが定石だと分かつてはいる。しかし何度も言うようだが、このたびの連載における私の目的は、皆さんと一緒に「こふき」を味わうことである。

そこで、このたび題材にするのは1978年に道友社から刊行された書籍『ムック天理 II 人間誕生』の中にある「元初まりのお話」である。天理大学の教授であつた故・芹澤茂先生による編述だ。

「説話」として非常に親しみやすい内容であるこの文章を引用しながら、この度の解説を進めていこうと思う。



◆ 元初まりのお話（ムック天理Ⅱ）

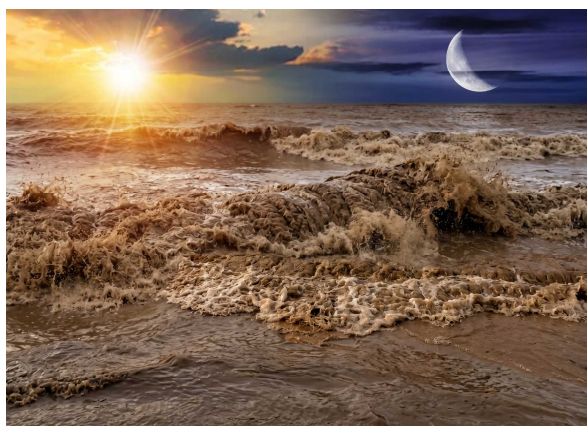
この世の元初まりは泥の海。そのたいら一面泥海の世界に、月様と日様がおいでになるばかりであった。

（この月様と日様は、く、いと、た、ちの、み、こ、と、を、も、た、り、の、み、こ、と、と、申、し、上、げ、人、間、と、こ、の、世、界、を、は、じ、め、ら、れ、た、親、神、様、で、あ、る、。）

月日様はいつも、

「泥海の世界にふたりいるばかりでは、神といって敬ってくれるものもなし、なんの楽しみもない。人間というものをこしらえて、その陽気ぐらしをするのを見てともに楽しみたい」

と話し合っておられた。【※1】



あるとき月様と日様は、泥海のなかに大龍・大蛇のお姿をしてお現れになった。泥海なかを御覧になると、たくさんのだ、ち、よ、（どじょう）ばかりいるなかに、う、を、（魚）とみ（巳）の泳いでいるのが目にとまった。【※2】

（このう、を、は、ぎ、ぎ、魚ともいい、うろこのない人魚のようで、くじら程もある。みも大きな白い蛇で、太刀魚の体つきである。）

おふたりで、う、を、と、み、を、よく御覧になるうち、

「このものを雛形として人間をこしらえたらよからう」

と思いつかれた。それで、うをとみを雛形に、そのほかの道具をつかつて人間を創造する模様を相談され、やがて相談がまとまった。【※3】

◆ 解説（元初まりのお話）

すべてを解説するには紙幅が足りないなので、私が感じたポイントをいくつか絞って列挙してみる。

【※1】

月様と日様、つまり親神様が人間とこの世界を創造される目的が簡潔に示されている。私が感じる一つ目のポイントは（神と人間が）「ともに」楽しみたいという点である。ちなみに、ここでは陽気ぐらしと表現されているが、和歌体十四年本（山澤本）などのこふき本には「陽気遊山」と記されている。

【※2】

親神様が人間やこの世界を創造、設計されるにあたり、「月様・日様」、「う、を、み」、「天と地」など、対になっているものが常に出てくる。私が感じる二つ目のポイントは、これらの相反する二つのものが、対立するのではなく、シンクロ（同調）しながら、創造がなされていくということである。この概念を天の理では「二つ一つ」と教えられる。今後の続きにおいても、この概念は重要になってくる。

【※3】

まず、月様が日様に相談される。そして、月日様は「う、を、み」に相談をされ、説得の上、承知させておられる（『いふきの研究』p.110参考）。今後続く元初まりの話における、人間の道具を引き寄せ

られる場合も然りである。

私を感じる三つ目のポイントは、月日親神様のその姿勢と態度である。一言で「神」というと、特に他宗教などでは畏怖の対象や、絶対的な存在といった印象を抱く人もいるだろう。しかし、この元初まりの話から感じるのは、押し付けや独りよがりといった自己中心的な姿勢ではなく、尊重、協調、親和といった態度であるということだ。これは「おふでさき」からも同じ印象を受ける。

また、天理教の立教、すなわち教祖が月日のやしろとなられる際の経緯においても、月日親神様には同じ態度がうかがえる。

ことに、人間創造の営みにおいて、常に話し合い、互いに承知を得るまで相談をされているという姿勢・態度がそこにあるということとは、今を生きる私たち人間にとっても、これこそがあるべき理想の姿ともいえるのではないだろうか。

◆ おふでさきより

このよふわどろうみなかの事なるし

なかに月日がいたるまでなり

(六号80)

月日よりしんぢつをもちいついたるわ

なんとせかいをはじめかけたら

(六号81)

ないせかいはぢめかけるハむつかしい

なんとどぶぐをみたすもよふを

(六号82)

みすませばなかにぢぢようをみいも

ほかなるものもみへてあるなり

(六号83)



そのものをみなひきよせてたんどやい

にんけんしゅごはぢめかけたら

(六号84)

ないせかいはじめよふとてこの月日

たん／＼心つくしたるゆへ

(六号85)

「おふでさき註釈」

この世の元初まりは泥の海であって、中に月日両神がいたばかりである。その時月日両神の思い付いたのは、

「我々両神だけでは何の楽しみもない。

なんと、人間世界を創めようではないか。」

という事である。ところで、ない世界を創めるといふのはなかなかむつかしい仕事である。何とかして世界人間創造のために使う道具を見つけようと思つて、その泥海の中をじいつと見澄ますと、その中に、どじょうもうをもみもその他の道具も見えて来た。そこで、皆引き寄せて相談して、いよいよ人間創造に着手する事となった。このように、無い人間無い世界を創造しようとて、親神がだんだんと心を尽したならばこそ、人間が出来て来たのである。

◆ 結びに

今回の解説は、元初まりの話のさわりだけであつたが、本当の意味で深掘りしていくには、この巻頭言ではとても紙幅が足りなさそうだ。「本当の意味で」というのは、前回述べたように、この元初まりの話は、説話という枠を超えて、人間の身体のご守護、森羅万象の営み、過去現在未来、教祖ひながた、おつとめなど、すべての事柄につながっているからである。

最近、この「もと」を深掘りしていくことは、人生をかけて取り組むに値すると感じている。

このよふのもととはじまりのねをほらそ

ちからあるならほりきりてみよ

(五号85)

「おふでさき註釈」

この世の元初まりの根本を 了解させよう。力の限りやってみるがよい。

「ちからあるなら、

ほりきりてみよ」

ある意味で親神様・教祖からの挑戦状と言ったら言い過ぎかもしれないが、私たちに与えられた宿題をじっくり味わいながら取り組んでいきたい。

やっと本題に入ったと思ったら、こんなゆっくりとしたペースかと思つた方もいるだろう。前回も述べたが、どうか気長に今後もお付き合いいただきたい。



立教一八九年九月一日

天理教繁藤大教会長

坂本輝男

8月の仕切り月

9日 高 昭 分教会 16日 西田川 分教会
13日 藤 高 分教会 16日 城 幡 分教会
15日 板 櫃 分教会 16日 本 川 分教会
15日 富久地 分教会

9月の仕切り月

6日 空 心 分教会
6日 繁 山 分教会
10日 大豊田 分教会
12日 種 孝 分教会



城幡分教会



西田川分教会



板櫃分教会



藤高分教会



～繁藤詰所改修ふしん～

感謝の集い



繁藤に繋がる皆様へ、感謝の気持ちを込めて

皆様のお心寄せにより、繁藤詰所が綺麗になりました！
本当にありがとうございます！！

新しい詰所で、同じ繁藤に繋がる皆様と集い、
楽しく交流できる時間になればと思います。
たくさんのご参加をお待ちしております☆

日時

10月25日 日 18:00～20:30

18:00～



おつとめ

4階 大広間

18:30～



感謝の集い

1階 食堂

20:30



終了予定

模擬店

※有料チケット制



ビール



ジュース



フランクフルト



フライドポテト



鮎



枝豆



アイス など



また、お楽しみの行事も出来たらと考えております！！



※詰所食堂で炊事本部の食事をとられる方は

18:00までに済ませていただきますようお願いします。



【主教百八十九年 八月月次祭 祭文】

これの繁藤大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教
繁藤大教会長坂本輝男慎んで申し上げます。

親神様には教祖をやしるに、この世の表にお現れ下されて以来、百八十九年、
一筋に世界たすけの道をお付け下され、今日まで成人の道恙なくお導き下さ
います厚き親心の程は、誠に有り難く、勿体ないことでございます。殊に又、こ
の度の夏のこともおぢばがえりや学生生徒修養会には、世上で色々と案じる
中、何事もなく結構にお連れ通り頂き、沢山の子供達、若者達が元気に帰り
集い、教祖に温かく見守られながら、をやの息をかけて頂いたことは、何よりも
有り難いことでございます。今後共、次代のよふぶくの育成の上に、丹精の誠
を尽させて頂きたいと存じます。私共教会長をはじめ、よふぶく信者一同は、
身近などころから世界に至るまで、様々な形で見せ頂く事柄に對し、各々
が自分自身の心に向き合い、心を澄して、たすけ一条の道を歩ませて頂いてお
りますが、その中にもひぐらし鳴く朝晩に秋の気配を感じる今日の吉き日は、
当教会に御許し頂いた月々の御祭日でございますので、只今からおつとめ奉仕
者一同心を一つに合わせ、鳴物の調べも高らかに陽気に座りづとめ、てをどりを
つとめて、八月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前に寄り集った者一同、
日頃賜る厚き御恵みに御礼申し上げ、共におうたを朗らかに唱和し、さらな
る心の成人をお誓いさせて頂きます。また、来月九月はにいがけ強調の月で
あり、中でも一日から七日までは教会長布教活動週間とお定め頂いておりま
す。道の先達である教会長が率先して布教活動に取り組み、その熱をよふぶく
信者に伝え、繁藤全体として、ひろめ一条の歩みを活発に展開していく決意で
ございます。何卒、この心定めをお受け取り下さいまして、世の人々の心のはこり
は払われて、思召し下さる一れつ陽気づくめの世の状へと一日も早くお導き頂
きますよう御守護の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

《繁藤大教会 立教百八十九年八月月次祭 祭典役割》

祭主	指図方	扨者	扨者	賛者		男	女	地方			笛	チャンポン	拍子木	太鼓	すりがね	小鼓	琴	三味線	胡弓	神殿講話					
大教会長	坂本久徳	為田基紀	佐藤成彦	立花真一郎	空閑慶吾	座りづとめ	大教会長	前大教会長	田村辰久	大教会長夫人	前会長夫人	黒石伸子	宮田孝道	為田基紀	安部道郎	村上英士	藤田憲明	為田紀久男	佐藤栄治	坂本久徳	空閑一将	村上美栄子	佐藤文代	佐藤順子	安部道郎
八足出し					てをどり前半																				
佐々木恵	田村省悟	村上由高	空閑慶吾	高橋道則	藤田誠	てをどり後半	藤田一憲	伊藤正福	村上由高	為田賢子	佐藤明子	武市まち子	佐藤成彦	前田豊	高橋道則	藤田誠	立花真一郎	空閑一教	田村聡佐	佐藤節幸	坂井博文	坂本喜子	空閑都	田村睦美	空閑真理代

【神殿講話】

(9月) 大教会長

【しげとうtime おかえり講話】

(9月) 佐藤 栄治

テーマ「お道と社会貢献活動」

【教会長神殿当番】

(9月) 桂 濱・細 島

(10月) 紋 別・紋 宝

【教養係】

(9月) 空 閑 慶 吾

(10月) 渡 辺 道 仁 (前半)

立 花 真 一 郎 (後半)

【詰所事務当番】

(9月) 平 野 正 敏

(10月) 小 長 史 慶

【ひのきしん】

○本部食堂ひのきしん (11月1日～15日)

別 府 分教会

○婦人会詰所ひのきしん (9月25日～26日)

本山分教会 2名

【布教部より】

9月は『にをいがけ強調の月』です。

・1日～7日は『教会長布教実働週間』

・28日～30日は全教一斉にをいがけデー
となっておりまう。勇んでつとめさせて頂きましよう。

【婦人会】

○みちのだいおはなし会

日 時 9月26日(土) 午後1時～2時

場 所 南右第二棟陽気ホール

講 師 中山祥吉先生(学生担当委員長)

テーマ 「お道についていいよね」

おちばつてあったかいよね」

・託児はありません

○第31回女子青年大会

・日 時 11月1日(日) 午前10時

・場 所 本部中庭

※ぜひ女子青年の方にお声がけをお願いいたします。

▽おやさマルシェ

大会前夜におやさマルシェが開催されます。

繁藤支部でも出店いたします。ぜひお越しください。

・日 時 10月31日(土)

夕づとめ後～午後8時

・場 所 東・西泉水プール前広場

【少年会】

日頃から少年会活動の上に、ご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。こどもおちばがえりの上には、事前の声掛け、期間中の引率、詰所での受入れひのきしんに、お力添えを賜りまして誠にありがとうございます。期間中、何事もなく無事に勤め終えさ

せて頂く事が出来ました。多くの少年会員に

おかえり頂くことができたこと、誠にありが

とうございました。繁藤として期間中少年会
員79名・育成会員78名・18教会からお帰り頂
きました。また、少年ひのきしん隊本部練成
会には隊員15名・カウンセラー8名の参加を
頂きました。書面にて御礼を申しあげます。誠にありが
とうございました。

【青年会】

○第100回 天理教青年会総会

「おちばが、僕らを一つにする。」

「100回という節目に、仲間とともにおちば
へ帰る。総会に集う一人ひとりの思いと歩み
が重なり、次の時代へつながる、大きな一つ
の流れとなっていくます。」

・日 時 10月27日(火) 午前10時

・場 所 本部中庭

今年は、100回目という節目の総会です。大
勢の青年会員さんと共におちばに帰らせて頂
きたいと存じます。青年会員さんにお声がけ
のほどよろしくお願いいたします。

前夜祭 (夕づとめ

後 東泉水前広場)

には繁藤分会も模擬
店を出店します。会
員の皆様にもお手伝
い頂けますよう。よ

特設ページ

ろしくお願いいたします。
 総会・前日行事の詳細につきましては、QR
 コードより総会特設ページをご覧ください。

【学生会】

○学生生徒修養会 高校の部

今年の参加者は2名、去年のお友達に会う
 ことを楽しみに参加してくれた茶木はるみさ
 んと、今回初めての参加だった武市栄祐君、
 2名ともすごく楽しかったとの事。来年もま
 た参加したいと言ってくれました。二人とも
 楽しい思い出とともに、「先生方のお話から学
 んだことを、普段の生活
 に繋げて行きたい」とも
 話してくれていました。
 この度も、送り出して
 下さった会長様方々やお
 声がけにご尽力下さった
 皆様、ありがとうございました。



【おさづけの理拝戴者（7月）】

角野 大北 真実

【修養科志願者（9〜11月）】

紋宝 澤田 翔二郎
 種崎 和 幸子
 空 心 田 村 糸

第31回

女子青年大会

友達誘って おやさとちばへ
 ～伝えよう 私たちから み教えを～

立教 189 年
 2026 年 **11/1 日**

式典 ▶ 午前 10 時 本部中庭
 記念行事 ▶ 式典終了後 支部の時間
 ～後さうめんまで～

別席
 おぢばに贈らせて
 いただくこの機会に
 別席を選びましょう。
 また、別席者のご守護を
 頂きましょう。

記念行事
おやさとマルシェ
 時間 / タツとめ後 ～午後9時
 場所 / 東・西奥水プール前広場
 各支部のいししいものや
 特産品の販売店を
 集めます！

10/31 日

天理教婦人会

しげ とう だん

繁藤団の集い

三つのやくそく

- 1 仲良く たすけあいます
- 2 ものを大切にします
- 3 生きるよろこびを味わいます

TENRI SHONENKAI

来年もまた **PICKY** にあいにきてね!